

話題 其の16：ラマダンライブ② —もう勘弁して下さい—

ちょっとタイトルが大げさなのですが、勘弁して欲しいのは車の運転マナーです。通勤時間帯には問題ないのですが、ここでは「魔の時間帯4時半」と表現しましょう。

ラマダンに入って毎週1回づつ現地の同僚宅で **Break-Fast** に招かれました。ラマダン期間中の **Break-Fast** は日の入りを知らせるアザーンが聞こえてから一斉に食べはじめます。その時間帯が4時半過ぎなのです。「久米さん 4時半に来て下さいね。」との約束に遅れないように家を出て走り慣れたはずの道路を使って友人宅に向かうのですが、いつもと様子が違うのです。何というか「殺気立っている」のです。特に、ヨルダンの特徴として、大きな交差点はサークルと呼ばれる円形の島を中心に道路が周回し、4方から先に入った者勝ちなのです。交通量の少ないときには信号待ちがない分便利なのですが、渋滞時には厚かましさとテクニックが求められるのです。ヨルダンは右側車線走行なので、右折は問題ないのですが、直進や左折にはサークルに突入するより方法はないのです。「来るなら来て見ろ」と慣れっこのタクシー運転手。「俺は急いでるんだ〜」とクラクションで訴える人。おどおど、きよろきよろのママさんドライバー。

「聖なる期間と呼ぶラマダンなのにそんなに苛立っているのは意味無いですよ・・・。」と大人の振りをしつつ「おいおい 割り込むなよ」とクラクションを鳴らしている私が居ました。

話題 其の17：ラマダンライブ③ —真面目なイスラム教徒—

12月4日、ラマダン3週目の火曜日。職場の同僚ガッサン氏宅の **Break-Fast** にお呼ばれました。招待されたのは私の他に、近所のお医者さん、同僚の指導員（薬剤師育成コース）、UNRWAを定年退職した2名の合計5名でした。4時25分、全員がガッサン宅に集合しました。お互いに挨拶して会話が始まります。ガッサンは忙しそうに食卓に料理や食器を並べています。4時35分、近くのモスクから日没を知らせるアザーンが聞こえてきました。

皆さん一斉にリビングから食卓へ移動し、椅子に座ります。まずはガッサンから差し出されたドイツ（ナツメヤシの実）を全員が1つずつ食べてから豆のスープを頂きます。あとはガッサンがホスト役で、10品種ほどの料理を、次々にそして強引に薦めます。食後、ゆっくりお茶を頂いていた私を残して客人4名がお祈りを始めました。

「祈りの前にどっちがメッカの方向だ？」で客人同士が少しもめたのですが、家主ガッサンの「こっち向き」の一言でけりがつきました。一人が前に立ち、3人が後ろで横1列に並びます。前に立った人のコーラン詠唱にあわせて後ろの3人も小さな声でつぶやいているようです。こんな間近で堂々とした祈りの光景は初めてです。この間わずか10分足らずでした。

手持ちぶさたの私は、ガッサンと二人で食後の後かたづけです。何故か、奥さんやガッサンの母親は奥の台所から顔を出しません。他家では家族全員が出てきて一緒に食事を取ったのですが、この家はアラブの文化（慣習）を大切に守っているのでしょうか。お祈りの後は紅茶です。しばらくあれこれ会話を楽しんでいると、リビングのテーブルが部屋の隅に移動されました。「今日最後のお祈りだから・・・」とガッサンに促されて、私は隣の部屋でひとりくつろぐのでした。今度のお祈りの後はアラビックコーヒーでした。多分、この流れには決まりはないのですが、もてなし方が嬉しいですね。その後、甘いお菓子が3種類ほど出て、客人達はトランプゲームに夢中になり、私は早めにお暇したのでした。

執筆及び編集：久米 篤憲